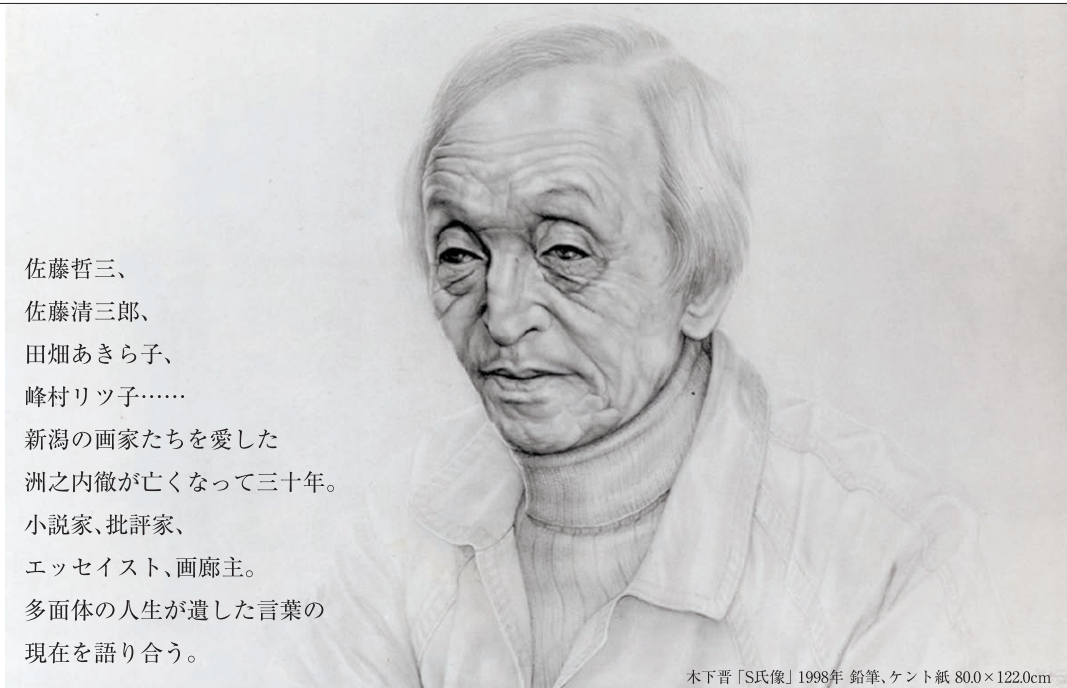


佐藤哲三、
佐藤清三郎、
田畑あきら子、
峰村リツ子……
新潟の画家たちを愛した
洲之内徹が亡くなって三十年。
小説家、批評家、
エッセイスト、画廊主。
多面体の人生が遺した言葉の
現在を語り合う。



木下晋「S氏像」1998年 鉛筆、ケント紙 80.0×122.0cm

文学との距離 洲之内 徹

Sunouchi Toru

回想

対
談

関川夏央〈作家・評論家〉
大倉 宏〈美術評論家〉

2017 10/29

日曜日 15:00-16:30

冊子『洲之内徹と新潟』の10年ぶりの再版を記念して開催する、
10年前と同じテーマ、同じ顔ぶれの対談。お気軽にご参加ください。

主催・会場◆北書店(新潟市中央区医学町通2-10-1)

参加費1,000円◆定員50名◆予約:店頭またはメール sato@kitashoten.net

※来場者多数の場合はご予約の方が優先になります。

●『洲之内徹と新潟』A5版16頁 ●執筆:関川夏央、大倉宏 ●編集・発行:砂丘館
●販売価格600円 ●別冊『洲之内徹との最後の時間』付

